

特別史跡 三内丸山遺跡

竪穴式住居の痕跡、大型建造物の土台、大量の土器を含んだ古墳、墓地、陶器を作るための粘土採掘ピットは、青森にある三内丸山遺跡における先史時代の生活と社会の様子を物語っています。三内丸山遺跡は、今日までに発見されている最大の縄文時代（紀元前 3,000～4000 年）居住跡の 1 つで、考古学調査では、紀元前 3900 から 2200 年の 1,000 年以上の間に大きな集落が存在していたことが明らかになっています。

集落の発展

縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）を通して、集落の規模と形態は、食料の入手可能性と環境要因によって変化してきました。このような集落は、最終氷期の終わりに季節限定の狩猟採集地として始まりました。気温が上がり食料が豊富になるにつれ、集落は定着していきました。集落の規模は、紀元前 5000 年から紀元前 2000 年の間にかなり大きくなり、紀元前 3000 年頃には三内丸山遺跡のような大きな集落ができました。紀元前 2000 年から紀元前 400 年にかけて、気候は冷涼になり、集落の規模は小さくなっていました。

大小の竪穴建物跡

三内丸山の集落到どのくらいの人に住んでいたのかは判断が難しいところですが、遺跡の調査から、数百人規模に達していた可能性があるとされています。これまでに 500 を超える竪穴建物跡の基礎が見つかっており、その中には長さ 32m に及ぶ建物の基礎もありました。これらの竪穴建物跡の多くが復元され、建物の中に入って見学できるようになっています。さらに大型の建物は、共同の空間、作業場、冬季の共同居住場所として機能していたのかもしれない、と考古学者たちは考えています。

墓地

調査によれば、大人の墓地と子どもの墓地は分けられていたようです。集落内を通るいくつかの道に沿って、500 ほどの墓穴が見つかっています。墓穴の大きさからして、これらは大人の墓だったと考えられます。乳幼児は、甕棺に入れて埋葬されていました。北側の盛土の近くでは、500 を超える甕棺が埋められているのが見つかっています。この盛土は、3 つある盛土の 1 つで、たくさんの土器片が埋まっていました。

交易と工芸品

三内丸山遺跡では、人工物が出土しており、日本の他の地域と交易があったことがわかります。これらの出土品には、ヒスイ、琥珀および黒曜石でできたものやアスファルトで接着されたものなどがあります。これらの品々を作るための材料は、この地域では手に入らず、500km も離れた地域から調達されたと考えられます。ヒスイ玉、琥珀の装飾品、黒曜石でできた槍の穂先、さらに未加工の材料や未完成品が出土しています。このような発見は、材料を加工する技能を持った人々が存在していたことを示唆します。

三内丸山遺跡センター

三内丸山遺跡センターが三内丸山遺跡への入口です。このセンターは、出土品を通してこの集落での暮らしを紹介する博物館になっています。博物館への入場券を購入すると、遺跡を観覧することができます。三内丸山遺跡センターには、5,000 点以上の土器や石器が所蔵されている高さ 6m の棚「縄文ビッグウォール」、縄文時代をテーマにした土偶づくり体験、考古学者たちが土器の復元を行う様子を窓越しに見られる整理作業室があります。敷地内には、ギフトショップとカフェテリアもあります。博物館や併設の施設では、英語による情報も提供されています。

関連遺跡

北海道・北東北の縄文遺跡群のうち、複数が青森県内にあります。小牧野遺跡 [\[リンク\]](#) は青森市にあり、三内丸山遺跡から数 km しか離れていません。八戸の是川石器時代遺跡 [\[リンク\]](#) には博物館があり、縄文時代晩期の高度に洗練された土器と漆器が展示されています。